

平成 2 9 年

高 松 市 教 育 委 員 会 1 1 月 定 例 会

会 議 録 (抄本)

1 1 月 2 4 日 (金) 開会

1 1 月 2 4 日 (金) 閉会

出席した教育長及び委員			
教育長	藤本 泰雄		
委員	吉澤 潔		
	藤本 英子		
	葛西 優子		
	関元 盛夫		
欠席した教育長及び委員			
説明のため会議に出席した者等			
教育局長	東原 利則		
教育局次長 総務課長事務取扱	石原 徳二		
教育局次長 生涯学習課長事務取扱	西川 典生		
学校教育課長	久保 朗		
保健体育課長	平野 勝也		
総合教育センター所長	篠原 隆則		
中央図書館長補佐	横山 光弘		
総務課主幹 総務課長補佐事務取扱	楠原 昌能		
総務課総務係長	牧野 小織		
会議録署名委員	葛西 優子		
事務局担当書記	藤澤 由美		

【特記事項】 傍聴人なし

議 事 日 程（11月定例会）

日程第1 報告事項

- 1 決算審査特別委員会の結果について
- 2 学校訪問について
- 3 児童図書の寄贈に伴う寄贈目録の贈呈について
- 4 高松第一学園9年生による「本を紹介するポップ」展の開催について

日程第2 議案第28号 平成29年度第2期高松市教育振興基本計画の進行管理及び点検・評価について

日程第3 報告事項

- 5 平成29年第5回高松市議会定例会提出議案に対する意見の申出について

【平成29年11月24日（金） 議 事 内 容】

午前9時30分 開会

教育長が、会議録の署名委員に葛西委員を指名。

日程第1 報告事項

報告事項1 「決算審査特別委員会の結果について」

総務課長から、市議会決算審査特別委員会における審査結果の概要について説明。

<質疑>

- 委 員 先般、松山市で開催された四国地区市町村教育委員会協議会に出席した折、文科省から、スクールサポートスタッフの指導員の派遣事業については、都道府県から年間の予算で36億円、8,600人分が要求されており、これに対し、市町村には地方交付税の中で措置していることから、総合教育会議等で予算要求して確保してください、との内容の話がありました。予算のことですので早急には無理かもしれませんが、総合教育会議で要望してみてもどうでしょうか。
- 学校教育課長 スクールサポートスタッフにつきましては、来年度、一定規模以上の小学校に人員を配置するための予算を要望しております。
- 委 員 先の協議会での話では、平成30年度は15億円、3,600人程を雇用できるような予算配当をしているとの話でした。
- 学校教育課長 県の方からも、来年度において本市が交付を希望しているかの調査が来ておりまして、希望があると回答しております。
- 教 育 長 国が3分の1、県が3分の1、そして市が3分の1ということで、県教育委員会も予算獲得に努力していただいております、私どもも是非にということで予算要望しております。予算でいただきますので、人数はどの程度になるかは分かりませんが、獲得していきたいと思っています。
- 委 員 先般、市町村教育委員会研究協議会の第2ブロックの研修に参加させていた

だきましたが、その時にも同様の話が出ました。教員が本来の仕事ができるようにサポートをする人員を配置するための国からの支援があると聞きましたので、そういった制度を活用していけばいいと思いました。

- 教 育 長 以前は学校といえば、教員と事務職員、養護教諭、用務員というぐらいでしたが、現在は特別支援員、スクールサポーター等、様々な方々が学校に入り教員をフォローしたり児童生徒の教育に携わっていますが、まだまだ教員本来の仕事以外を担っている部分がありますので、スクールサポーターやソーシャルワーカーの方々に学校に入っただき、教員が本来の業務に専念できるようスタッフの充実に努めていきたいと思います。予算要望中ですのでどのようになるか分かりませんが、要望はしております。

報告事項2 「学校訪問について」

学校教育課長から、学校訪問（小・中学校）について報告。

<質疑>

- 委 員 何校か学校訪問に行かせていただき、共通して言われることは、若年層の先生方の教育や引継ぎ等が上手くいっていないケースがあるようでして、その解決に現在取り組んでいるようです。若年層の先生の比率が多いためなのですが、先生の人数はどのように決まっていますか。
- 学校教育課長 教員の人数については、基本は学級数に応じて決まっております。その上に様々な形での加配があります。
- 委 員 先生の総数は予算で決まるのですか。
- 学校教育課長 クラスによって教員の定数が決まります。生徒指導や少人数制指導を希望する学校によって加配があり配置されます。
- 委 員 学校により違いがあるようでしたので、どのような状況なのかと思いました。
- 学校教育課長 一部、生徒指導による加配がある学校とない学校はありますが、少人数

制指導等につきましては、ほとんどの学校が希望していますので、そこでの差はあまりないのではないかと思います。

- 委員 先生方は、どこの学校においても一生懸命頑張っている印象を受けました。
- 教育長 現在、各学校の年齢層は50代が最も多く、そして20代、30代の順になっており、主任級の30代後半から40代の教員が少ない状況です。今は年齢制限はありませんが、県の採用も30代から40代の時代あたりが大変少なかったことから、年齢層がとてもしびつな状態になっています。50代の方が退職していなくなりますと、若い教員への引継ぎ等が大きな課題となっています。
- 委員 退職後、嘱託として勤める先生はいますか。
- 教育長 はい。再任用があります。
- 委員 その先生方の授業が素晴らしいです。
- 委員 毎年学校訪問をさせていただいておりますが、今年は違うなと感じたことは、若年の先生が増え、自信を持って生き生きと授業をされていると思いました。以前は若い先生は学校訪問ですので萎縮している感じもありましたが、年々良くなっていると思いました。ベテランの先生が抜けていきますので、そこをどのように継承していくか、また、学校運営や学級運営、保護者対応等、授業以外の部分も今後どうするか重要だと思います。印象としては良かったです。
- 学校教育課長 初任者研修等、法的な研修以外にも本市では、総合教育センターが運営している高松塾がありまして、若い先生方を集めて授業以外の学級経営やその他の指導等を含めて自主研修をしておりますが、更に進めていかなければならないと思います。
- 委員 できるだけ多くの先生に出席していただけるよう、学校が参加を積極的に促すようにしていただければと思います。
- 委員 小学校では先生が生徒を「さん」付けで呼んでいましたが、中学校では特に男性教員が名前だけで呼んでいました。注意するときや親しみを込めているのかもしれませんが、やはり「〇〇さん」と呼ぶ方がいいのではないかと思います。
- 学校教育課長 御意見ありがとうございます。小学校よりは中学校の方が、呼び捨てになりやすいかもしれませんが、威圧的にならないよう指導してまいります。
- 委員 特別支援の先生方が学校によって感じが違う印象を受けました。ある学校の

教頭先生からお伺いしたのは、一度、特別支援の担当になった先生は経験によるところも大きいため、学校が変わっても特別支援のクラスを受け持つことが、ほとんどだとお聞きしました。特別支援に関して重要であるという話の中で、1年間でも全ての先生に特別支援教育に携わる機会があってもいいのではないかと思います。

- 総合教育センター所長 学校の中で教員の誰が担当するかというのは、学校の実情や先生方の希望もありますので立入りにくいところもありますが、特別支援教育が大変大きな課題であるということは全教員が認識できていると思います。特別支援教育を担当している教員だけでなく、全員を対象とした基本研修の中で、特別支援教育は必ず位置付けています。例えば、今年度は、10年経験者は養護学校に1日異校種体験ということで勉強する機会を設けています。その後のアンケートでは、「教育の原点であると感じた」とか「自分の教育を見直すきっかけになった」という声が聞かれます。誰が担当するかということは学校により優先順位等もあるかもしれませんが、全員が特別支援教育に対して理解を深められるような取組をしています。
- 委員 研修等で理解はしていると思いますが、1日体験するのとクラスを受け持つのでは違うと思います。全員が難しいのであれば、せめて管理職だけでも、1日2日の研修ではなく実際に担当してみる機会を持っていただければと思います。
- 教育長 自分の生涯の中で、一度、特別支援学級を担当してみるということは、自分のスキルアップにもなると思います。学校の体制で可能であれば、そういった視点を持ち学級編成をしてみることもいいことだと思います。また、以前は特別支援学級が学校の片隅に配置されていましたが、今は特別支援教室の位置を学校全体の子どもたちが関われるような、子どもたち同士が交流できるような場所に設けています。交流学級では可能な範囲でクラスに入り授業を受けられるようにする等、特別支援学級を学校の核として教員も生徒も、また教室の位置等も考えて学校経営に取り組めるようにしています。
- 委員 よろしくお願いします。
- 教育長 お気付きの点がありましたら学校訪問記録に記入していただき、今後に生かしていきたいと思います。今年からは、学校教育課の指導主事をお願いをして、授業参観をした折に、授業記録を一人一人の授業者に渡すよう感想を記入してもらっています。また、東部教育事務所の方にも来ていただいております。評価等を頂いていま

す。

報告事項3 「児童図書の寄贈に伴う寄贈目録の贈呈について」

中央図書館長補佐から、「株式会社たまや」から児童向け図書の寄贈を受けたことを報告。

<質疑>

- 委 員 株式会社たまやはパチンコ屋ですか。
- 中央図書館長補佐 はい。
- 委 員 何かきっかけがあったのですか。
- 中央図書館長補佐 たまや様から児童書の寄贈をしたいと申出がありまして、昭和62年から毎年寄贈していただいております。本にしますと約2万冊になります。
- 教 育 長 児童書だけになるのですか。
- 中央図書館長補佐 はい。特に絵本について重点的に頂いております。

報告事項4 「高松第一学園9年生による『本を紹介するポップ』展の開催について」

中央図書館長補佐から、高松第一学園9年生が作成した「本を紹介するポップ」展の開催について説明。

<質疑>

- 教 育 長 9年生ですので、中学3年生ですね。
- 中央図書館長補佐 はい。
- 教 育 長 ポップの1つの大きさはどのくらいですか。

- 中央図書館長補佐 15センチ四方ぐらいのカードになります。
- 委員 それほど大きくはない大きさなのですね。今はやっているのですね。
- 中央図書館長補佐 夢みらい図書館にも、よく高松第一学園の先生方がお越しになられ、夢みらい図書館の地域の学校である高松第一学園が作成していることもあり、図書館で展示をしてはどうかという話になりまして、本市の図書館としては初めて開催することになりました。
- 委員 9年生が1人1枚ずつお薦めの本を書かれているのですか。
- 学校教育課長 おおよそ、それぐらいになります。
- 教育長 100人ぐらいですか。
- 学校教育課長 はい。
- 教育長 イラストも上手ですね。
- 委員 先日、図書館に文庫本を置かないでほしいという出版社があるという報道がありました。本市はどのような方針ですか。
- 中央図書館長補佐 現在のところは利用者からの需要も高いため引き続き貸し出す予定で考えておりますが、出版社からの、そのような要望があることを十分に踏まえ、また、日本図書館協議会の動向を見ながら今後考えていく必要があると思っております。
- 委員 個別に出版社からの申入れはないのですか。
- 中央図書館長補佐 今のところないです。

教育長が日程第2 議案第28号及び日程第3 報告事項5について、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項の規定により、会議は公開しないことを各委員に諮り、非公開とすることに決する。

日程第2 議案第28号

議案第28号 「平成29年度第2期高松市教育振興基本計画の進行管理及び点検・評価について」

<非公開審議、内容不記載>

日程第3 報告事項

報告事項5 「平成29年度第5回高松市議会定例会提出議案に対する意見の申出について」

<非公開審議、内容不記載>

午前10時39分 閉会

議決事項

「平成29年度第2期高松市教育振興基本計画の進行管理及び点検・評価について」